

1. 科目名 (単位数)	臨床心理基礎実習 (2単位)	3. 科目番号	PSMP5183
2. 授業担当教員	鈴木 克也、後藤 進吾、家近 早苗		
4. 授業形態	実習・演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし	履修形態 (通信教育)	SP
7. 講義概要	<p>本講義は、臨床心理の専門家として必要なクライアントとの援助的かかわりの基礎を実習する。援助の枠組みや見立てと援助の関係、倫理問題、模擬面接などから、実際にクライアントをどう理解し、関わるかについて体得する。</p> <p>そのために、基礎的な複数のテーマを、実習・演習を通じて学ぶこととする。具体的な内容として、最初に「クライアントへの基本的な関わり方」(テーマ1: 1~12回)をおさえる。次に、心理の援助者としての倫理観・価値観とアセスメントとの関係について学ぶ(テーマ2: 13~28回)。春期の最後に、「春期のまとめ」(29~30回)を行う。秋期には、さらに心理臨床に踏み込み、「クライアント理解と支援の仕方」を学ぶ(テーマ3: 31~44回)。最後に「模擬面接・事例検討からクライアントの理解の仕方、見立て、援助の仕方とその実際」を学び2年次以降の本格的な心理臨床活動への準備段階を終える(テーマ4: 45~58回)。最後に全体のまとめ(59~60回)を行い、本科目が終了する。本講義を通じて、自分を見つめなおす実践を行い、心理専門職としての知識、態度、倫理観などを身につけ、心理臨床の専門家となる扉を開けていただきたい。</p>		
8. 学習目標	<p>臨床心理の専門家として必要な基礎的な事柄について、表面的な理解に留まらず、体験的に学び、習得すること。具体的には、以下のテーマについて学び向上させること</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. クライアントへの基礎的な関わり方と、相手を理解するためにどう話を聞くかを習得すること</li> <li>2. 自らの感情や行動、その傾向などについて理解し、自らの課題に気づくこと</li> <li>3. 心理職にとって求められる倫理観、役割、心構え、他の専門家との協働について理解すること</li> <li>4. 人と人との関わり、関係について理解を深めること</li> <li>5. さまざまな事例を通じ、実際のクライアントをどう理解し、関わるか、について自らに置き換えて考えること</li> <li>6. 次年度の内部実習に向けた心構えと臨場的な姿勢を身に着けること</li> </ol>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	3人の担当者によって、適宜レポート課題または試験を課す。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 各回の教員が、適時、資料を提示する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 各テーマについて理解し、考究できたか。</p> <p>○評定の方法 担当者全員による合議で評価する。 学習への意欲 30% レポート 30% 実技 40%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	自分についてのいろいろな発見や気づきがあります。今後の仕事に直結する内容を中心として学びますので、発言や議論、ロールプレイなどについて、積極的な参加を望みます。		
13. オフィスアワー	担当教員が初回授業時に通知する。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】	<p>テーマ1: クライアントとの基本的なかかわり方を学ぶ</p> <p>第1~2回 他者かかわるとはどのようなことか 【学習の目標】 どうして心理職に就きたいのか。心理職とは何をする人なのか。 大学院1年生の4月、スタートの段階で自分が考えていることをまとめる。 【アサインメント】 どういう人になら、自分のつらいことを話そうと思うか考えてみよう。</p> <p>第3~6回 傾聴・共感 【学習の目標】 心理臨床の基本である傾聴、共感について、ロールプレイを通して経験する。そもそもクライアントの話を聴くと、どのようなことなのか。体験的に学び、自ら感じ取ってみる。このような傾聴を基本としたロールプレイを通して、自分自身の癖や特徴等に気づき、それらが他者にどのような印象や影響を与える可能性があるのか、自分自身と向き合うことも目標とする。 【アサインメント】 傾聴を日常生活の中でも試してみる。自分の癖が日常にどう反映しているのか調べる。</p> <p>第7回~8回 思考の癖について 【学習の目標】 物事のとらえ方にも癖がある。つい、思わず出てくる言葉にも表れる。思考の癖を調べる。 【アサインメント】 自分を振り返り、見直し、日常の中から立ち居振る舞いや自己の価値観との関わりを振り返る練習をすること。</p> <p>第9回~10回 身体の癖を知ろう。 【学習の目標】 心身の緊張を解きほぐすことは、心理療法の目的でもある。ここでは自律訓練法、呼吸法、ボディスキャンなどをおこない、心身関連の概念を考える。 【アサインメント】 授業終了後1週間、習った療法の一つを選んで実施し、次回の授業で報告をする。</p> <p>第11~12回 宿題報告会。カウンセリングを行ってみる 【学習の目標】 宿題の報告会を行う。1週間の体験の中で気が付いたこと、他の発表者の気づきを聞いて感じたことをまとめる。今までのトレーニングを振り返り、再度話を聴く実践を行う。 【アサインメント】 心理面接の逐語録をおこす。 【参考書】 適時紹介する</p>		

<p>【学習する上での留意点】心理療法は、どれだけ真剣にトレーニングを行うかによって、セラピストとしての成長が異なります。ロールプレイではありますが、真摯に向き合ってください。また、疑問に感じたこと、気づきなど、その場で確認したり、リアクションペーパーに記載するなどして、表現するように心がけましょう。</p>
<p>テーマ2：心理の援助者としての倫理観・価値観とアセスメントとの関係について学ぶ</p>
<p>第13～28回</p> <p>【学習の目標】組織の一員としての自覚、心理の援助職としての倫理観や役割を理解し、バランス感覚を培う。また、架空事例を用いて、自身の倫理観や価値観がクライアントのアセスメントの際にどのような影響を及ぼすのかについて検討できるように努めることを目指す。</p> <p>【学習の内容】第13～20回は、援助職一般に関する人間観、倫理観などについて学び、その後は、現場（医療分野・教育分野）での具体的な事例などを題材に、心理職として何を基準にし、援助についてどのような検討を行うかや業務に当たる必要があるのか、ディスカッションを行う。心理の援助職として現場に入る際は、その多くで臨機応変であり、即時的な対応を求められ、かつ唯一の正解が想定できない場合も多い。求められることや目の前に起きていることについて、どのように対処するか、もしくは、どのようにすることが（どのように在ることが）クライアントや援助者自身を守るようになるのかを、自身で内省することが求められる。第13～28回の講義は、内省する際の検討の視点や倫理的な意識・配慮を培うことを狙っている。倫理とは、私たちの文化の中で流通している諸規範を“理にかなったもの”として理解した上で、より適切なものへと改訂していく試みである。したがって、“単に遵守すればよいもの”としてではなく、各個人が“主体的に考えていく必要があるもの”であるという理解が不可欠になる。21～28回は、架空事例を読みながら、自身の倫理観や価値観を内省しつつ、クライアントとの間に適切な距離を保ちながら、クライアントをアセスメントする感覚を養う。</p> <p>【アサイメント】自分を振り返り、見直し、日常の中から立ち居振る舞いや自己の価値観との関わりを振り返る練習をしてください。加えて、一般社団法人日本心理臨床学会の倫理綱領や公認心理師協会の倫理綱領に目を通しておいてください。また、医療分野・教育分野を含め、さまざまな心理臨床の現場でどのような役割が期待されているのかについても再確認しておいてください。</p> <p>【参考書】講義時に、適宜提示する。</p> <p>【学習する上での留意点】現場で求められることや、実際にクライアントと対するにあたって、うまくいかないことには自分の苦手なことや価値観の影響が強く出てくることと思います。苦手なことがあることや、特定の価値観を持っていることが悪いことではありません。ですが、それらを心理臨床業務の中ではある程度、自覚的にコントロールすることが求められます。クライアントとの面接や他職種連携をする際、そこには必ず双方向のコミュニケーションが発生します。そこで何か問題が生じているとすれば、その一端を自分が担っているという意識は忘れてはならないものです。授業の中で自分の苦手に気づいた場合には、日常生活の中で練習をするようにしてください。</p>
<p>春期まとめ：春期を振り返る</p>
<p>第29～30回</p> <p>【学習の目標】春期に学んだことを振り返り、心理臨床の基本を押さえる。</p> <p>【アサイメント】秋期に向けて、自分の弱みを見つめどうしていくか考えて下さい。</p>
<p>テーマ3：クライアント理解と支援の仕方を学ぶ</p>
<p>第31～32回 大学附属臨床心理相談室での内部実習に向けて</p> <p>【学習の目標】通学課程は修士1年生の終盤、通信課程は2年生の後半より、附属相談室で行われているケースのインタークへの陪席が始まる（時期についてはクライアントの都合によります）。それに備え、基礎知識の確認、陪席の心構え、面接記録の書き方などを確認する。また、附属相談室の雰囲気や設備に慣れるため、空いている相談室で短いロールプレイを行う予定である。この回はこれまでの演習のまとめの意味も含め、受講生各人の面接の長所や特徴についても話し合う。</p> <p>【アサイメント】内部実習が始まる前でも、院生の皆さんは相談室受付に自由に入出入りできます。院生図書室をご利用の際にはいらしてください。また、さまざまな心理テストや道具も揃えてありますので、学習に活用してください。</p> <p>第33～38回 クライアントの理解の仕方・見立て方</p> <p>【学習の目標】心理臨床でクライアントとかかわるにあたって、心理職はクライアントに対して「抱えている問題はなにか」といった一側面に限らず、「どのような人か」「どのような強みを持っているか」など、多角的に見立てを行う必要がある。授業を通じて、クライアントをいかに見立てるか、その方法について学んでいただきたい。</p> <p>【アサイメント】これからはじまる相談室実習や外部実習でクライアントと相対したとき、授業で学んだ視点で、自分なりにクライアントを見立てるよう努めてください。</p> <p>第38～44回 心理的援助の仕方について</p> <p>【学習の目標】心理的援助についての知識を整理した後、事例を概観しながらそれらが実際にどのように行われているか学ぶ。その際、カウンセリングだけでなく、心理教育やコンサルテーションなど、様々な支援の仕方に触れる。</p> <p>【アサイメント】自分が将来どのような心理臨床の専門家になりたいのか、改めて考えてみてください。</p> <p>【参考書】適時紹介・資料を配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】大学院での学びは、クライアントと直接関わる実習や、就職した後の皆様の心理職としての実践に直結するものです。今の学びの先に、ご自身の実践があるということを改めて認識し、授業に真剣に学習に取り組んでください。</p>
<p>テーマ4：模擬面接・事例検討からクライアントの理解の仕方、見立て、援助の仕方とその実際を学ぶ</p>
<p>第45回～51回 模擬面接における事例検討で心理専門職としての下地を作る</p> <p>【学習の目標】模擬面接を行い、全員で検討を行うことで心理面接の技術の基本を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】受講者間でカウンセラーとクライアントの役割をそれぞれ行う。カウンセラー役は面接終了後、報告書を作成するとともに、その内容を全員で検討する。受講者全員と教員でカウンセラー役の対応についても検討し、カウンセラー役は自身のカウンセラーとしての在り方を振り返る。模擬面接を経験することで心理面接の始め方、面接の実際、応答、終わり方など一連の流れを学習でき、かつクライアントの理解の仕方、見立ての実際を学ぶ。自身の関わり方</p>

や応答の癖などを知ることができる。さらに他の受講者の支えのもと、より良くクライアントに接するためにどうしたら良いのかも学ぶことができる。その上で記録をつけることで心理面接の中で表現されているカウンセラー・クライアントの相互作用をどう書き留めていくのかを学習する。

【アサイメント】前期に学習した本講義の復習をしておくこと。

【参考書】特になし。

【学習する上での留意点】模擬面接でするので、間違えても問題ありません。重要なのは皆で支え合い、高め合えるような雰囲気です。検討では良かったところ、気づいたことなどを率先して発表してください。また面接記録やカルテへの記載はそれぞれの書式がありますが、基本を抑えておくこと順応が早いと思います。参考にしてください

第 52 回～58 回 実際または架空の事例を検討していくことで心理専門職としての素養を高める

【学習の目標】実際または架空の事例を、自身がカウンセラーの立場であったと仮定して検討していく。その上でより実践的にクライアントをどう理解し対応していくかを見出していくこと。

【学習の内容】教員より基本情報のみ記された実際または架空の事例を提供する。まずはグループ内で情報を整理し、知らない単語や薬物については調べた上で、事例のクライアントの抱えている問題を明確にし、人間的理解や見立て、援助方針を立てる。その上で再度教員より追加の情報を提示するので、それを踏まえた上で再度同様の検討を行う。また完結した事例を教員より紹介し、グループで初回面接の概要、見立てと援助方針、面接の過程、クライアントの変容、心理面接の終わり方など一連の流れを検討していく。一つずつポイントを示すので、技術を学ぶことはもとより、自らが事例を担当することを常に仮定しながら、学習する。

【アサイメント】もし話題にしたい事例があれば各自検討しておくこと。

【参考書】特になし。

【学習する上での留意点】私たちは問題を抱えているクライアントにどのように向き合っていけば良いのか、常に自問自答して授業を受けてください。クライアントを取り巻くさまざまな要因にも目を向け、短絡的に物事を見るのではなく、広い視野と柔軟性を持って、穏やかに対応できるようになってほしいと思います。

全体のまとめ：全 58 回の授業を振り返り、自分の特性を知り、どのように取り組むかを考える。

第 59～60 回

【学習の目標】全 60 回を振り返り、心理専門職となるべく学んだ基礎基本を振り返り、まとめ発表する。

【アサイメント】自分の特性を考え、癖をつかみ、それをどうしていくかについては、今後も取り組みを続けてください。